

県病最新医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒476番地 TEL.097-546-7111~2 (電話案内) <http://www.oita-kenbyo.jp/>

循環器内科

循環器領域における睡眠呼吸障害

～ 睡眠時無呼吸症候群の重要性 ～

睡眠時無呼吸症候群(SAS)*1は一般成人男性の9%、女性の4%程に観察され、特に心臓病(高血圧症、心不全、虚血性心臓病(狭心症、心筋梗塞など)、不整脈患者さんでは30~80%に認められる病気です。

我が国では2010年に日本循環器学会より循環器領域における睡眠呼吸障害の診断、治療ガイドラインが発表され、循環器科での積極的な検査、治療介入が勧められています。日中の傾眠や集中力の欠如、夜間覚醒・頻尿・息切れや動悸などの症状を呈するケースまで様々ですが、重症の睡眠時無呼吸症候群は循環器疾患、脳血管疾患による予後を悪化させることが報告されています。このため、病気の早期発見、早期治療が大切になります。

当科では外来や入院中に無呼吸の疑いや危険因子の多い患者さんにまず、簡易検査を行っております。必要に応じてより高度の検査を行っており、重症の患者さんには持続陽圧呼吸(CPAP)*2装置を用いた治療を開始しております。近医院、開業医の先生方とも連携を図り、今後も積極的な治療を行う方針です。まずは、病気の潜在を疑うことが大切です。上記の症状や内服加療でも血圧の高値が続く場合、息切れや胸痛といった心疾患の存在が疑われる場合は、当科外来で心臓疾患や睡眠呼吸障害の検査を行うことをお勧めします。



(*2) CPAP 図

(循環器内科 副部長 河野 俊一)

SASの主な症状



(*1) 睡眠時無呼吸症候群の症状例

内分泌代謝内科

糖尿病週末短期入院の効果

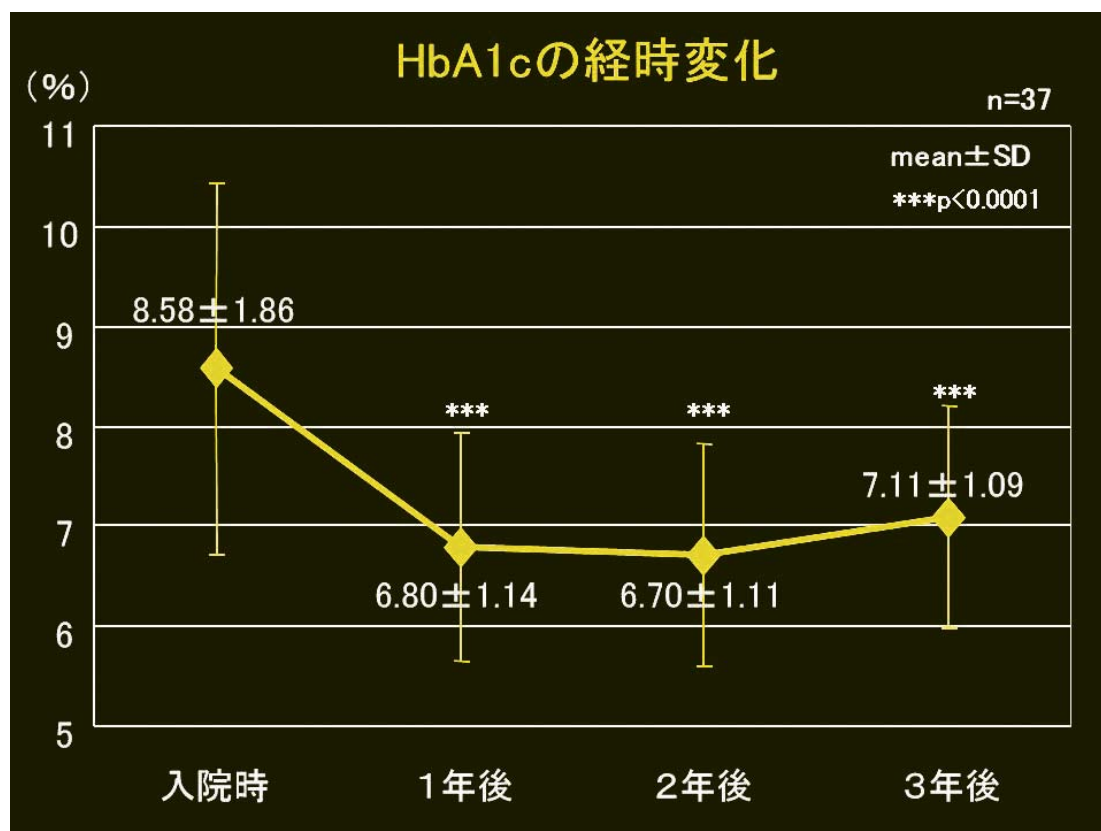
～ 退院後3年間の経過から ～

当科では、糖尿病の入院治療の一環として、平成17年より週末を利用した糖尿病週末短期入院（3泊4日入院）を行っています。金曜日に入院、月曜日に退院の予定で、入院中に糖尿病合併症の検査や糖尿病教育、栄養士による個人栄養指導を行います。今回、平成19年度に当科で糖尿病週末短期入院を実施した患者様37名（男性26名、女性11名）で、退院後3年間の経過を検討しました。

結果は図に示すとおりです。血糖値は1日の中でも変動をするので、患者さんの血糖値の良し悪しを評価するのに、HbA1cという検査を行います。この検査は、過去1～2ヶ月の平均的な血糖値の状況を反映します。この値が高いほど血糖値が平均的に高いということを意味します。現在日本では、糖尿病患者の治療目標値を、HbA1c 6.5%未満としています。このHbA1cの値を調べたところ、入院時の値は平均8.58%に比べ、1年後6.8%、2年後6.7%、3年後7.11%であり、いずれも有意に低下を認めました。このことから、週末短期入院を行うことで、血糖コントロールが3年間にわたり良好に保たれたことを証明できました。

糖尿病治療中の患者様で、特に長期の入院が出来ない多忙な方に、この糖尿病週末短期入院をお勧めしています。もしご興味があれば、内分泌代謝内科外来へご連絡ください。

（内分泌代謝内科 副部長 中丸 和彦）



<連絡先> 大分県立病院 内分泌代謝内科外来 097-546-7329